

1. 小中一貫校に関する意見について

猪位金学園について

田川市教育委員会は、平成 25 年 9 月 5 日に策定した「田川市立中学校校区再編基本方針」において、猪位金学園（中学校）を直接的な再編対象（統廃合の対象）に含めていません。

その方針に従い、本審議会は、今回の答申案を猪位金学園（中学校）の存続を前提とした再編構想にしています。

第 2 回住民説明会においては、適正規模校のメリットをメッセージとして強く打ち出したため、小規模校である猪位金学園を疑問視する意見や心配する意見が出されました。

校区再編基本方針は、市教委の決定事項であるため、猪位金学園の位置づけに関する市民の声は市教委が受けるべきものですが、説明会での意見を踏まえて、答申においてさらに踏み込んだ提言をすべきかどうかを検討します。

◀ 田川市立中学校校区再編基本方針（抜粋） ▶

Ⅲ 適正規模の推進について ～ 3 適正規模推進の経過

田川市立学校適正規模審議会答申を受け、平成 19 年 11 月定例教育委員会において短期構想については原案どおり可決し、平成 21 年 4 月に船尾小学校と弓削田小学校の統合を行った。

また、平成 23 年 6 月定例教育委員会において、中期構想のうち「猪位金校区を小・中一貫校のモデル校区としての検討」については、平成 23 年 10 月までに教育委員会会議の最終結論を得て、平成 23 年度中に猪位金校区統合委員会（仮称）を設置すること、「田川中学校と中央中学校の統合」については、長期構想と併せて検討すること、そして、長期構想については、教育委員会において平成 24 年度中を目途に検討を行うこととした。

なお、猪位金小・中一貫校については、平成 23 年 10 月 26 日の臨時教育委員会において、猪位金小学校と猪位金中学校の統合による、施設一体型小中一貫校を設置することを決定し、平成 26 年 4 月の開校に向け準備中である。

V 田川市立学校における適正規模について ～ 2 中学校の校区再編（統廃合）計画

(1) 省略

(2) 猪位金小中一貫校について

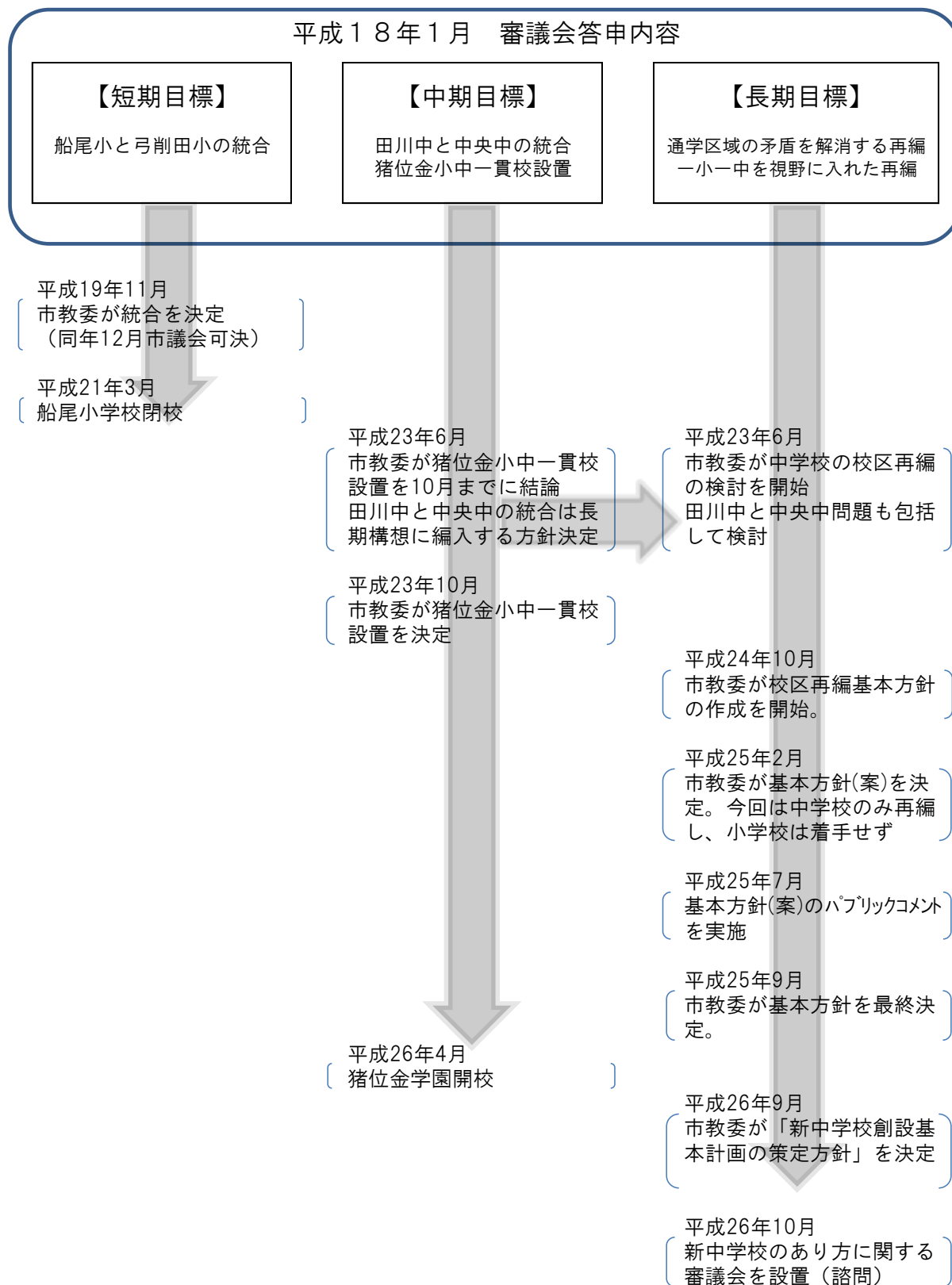
平成 26 年度に開校の予定であるが、引き続き児童生徒の減少が予測されており、校区線引きなどについては校区再編計画策定の中で検討することとする。

また、開校後に一貫校としての成果と課題を検証していくこととする。

学校適正規模審議会の平成18年答申とその後の流れ

再編の基本方針が決定（H25.9）する前に、猪位金学園の設置は決定（H23.10）している。

◀ 答申内容とその後の流れ ▶



平成18年答申の猪位金中学校に関する記述 [一部抜粋]

また、猪位金中学校も過少規模校としての同様の問題を抱えている。猪位金中学校においては、通学距離が遠いという問題や地域教育コミュニティの中核施設としての小・中学校の存在意義という課題を抱えている。したがって、小学校と中学校の一貫校的なモデル校区として、新たな教育スタイルを研究・検討すべきである。

(1)短期 … (省略)

(2)中期 … 地域教育コミュニティを勘案した統合ならびに検討

○ 猪位金校区を小・中一貫校のモデル校区として検討

学校適正規模推進（小中一貫校）に関する基本方針 [H23.10 市教委決定、一部抜粋]

3 基本方針

- (1) 対象学校…猪位金小学校、猪位金中学校の統合による小中一貫校とする
- (2) 施設…既存の学校施設、設備を最大限活用し、施設一体型の小中一貫校を設置する。
- (3) 学校規模…各学年1学級以上とする。
- (4) 教育課程の編成 9年間の一貫したカリキュラムを作成する。一貫校として特色ある教育の実施のため、教育課程特例校認定を目指す。
- (5) 校区…現行の校区とする。なお、長期構想である校区再編及び統合について検討する場合は、本校区も含めて検討を行うこととする
- (6)～(7) 省略

≪ 学校適正規模推進における猪位金小中一貫校設置の流れ ≫

- (1) 市教委は答申どおりに短期、中期、長期の順で構想を進めていこうとした
- (2) 猪位金小中一貫校は中期構想だったので、全体の再編より先に検討（決定）した
- (3) 猪位金小中一貫校の設置を決定（H23.10）する段階では、適正規模とみなす学級数の基準は設けておらず、将来検討することにした（上記方針（3）、（5））
- (4) その後、長期構想に代わる「校区再編基本方針」で、他の校区を再編することに決めた（適正規模とみなす学級数の基準を新たに設けた）
- (5) 適正規模の基準が、一貫校と合致していないので、市民に理解が得難い構図となった。
- (6) 18年答申に「モデル校区として検討」と記述されていたため、市教委の一貫校設置の意図も問われることになった
- (7) 校区再編基本方針は、「開校後に一貫校としての成果と課題を検証していくこととする」としているが、意図していることが不明慮である

⇒ 以上のような状況が、住民説明会の意見につながったと考えられる（次ページへ）

住民説明会における意見

【猪位金以外の会場】

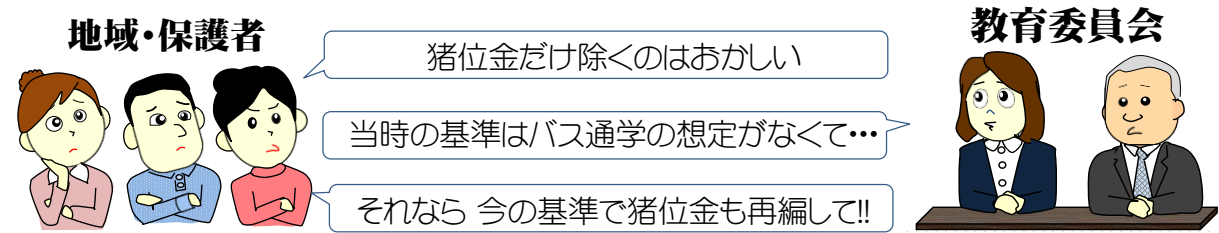
- 猪位金を再編から除くのは納得できない
- 猪位金も含めて再編を考えてほしい
- 適正規模校の良さを説明する一方で、審議された時代が違うから猪位金を残すということでは議論は進められない。
- 猪位金を一貫校にしたことは、今回の再編と矛盾するのではないか
- 猪位金学園が小中一貫校になった理由を説明してほしい
- 猪位金学園の成果を教えて欲しい
- 猪位金学園をモデルとしてもう少し反映した方が良い。
- 弓削田地区は猪位金学園のほうが近いので、校区外から通学できるようにしてほしい

【猪位金小会場】

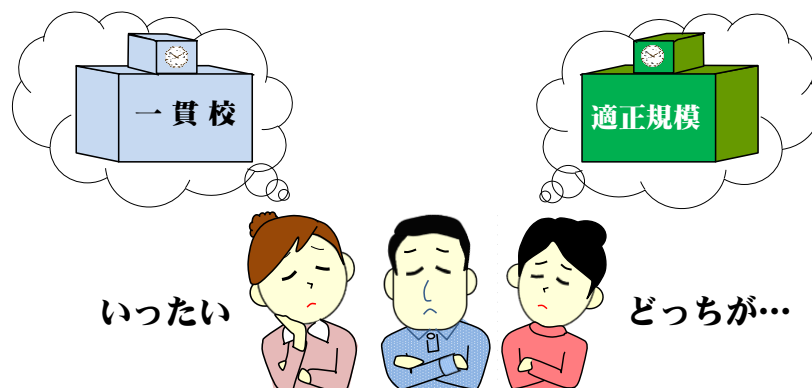
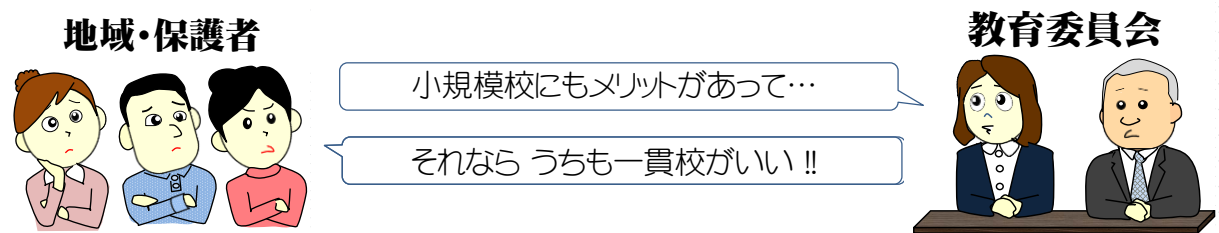
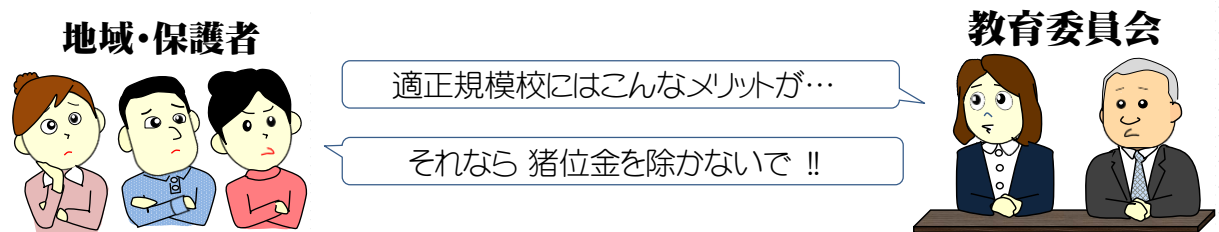
- 猪位金校区から他校に通いたい場合は通えるようになるのか
- 弓削田地区は猪位金学園のほうが近いのではないか
- 再編した2校で自由選択制が導入されたとき、猪位金学園も関係してくるのか
- 猪位金学園は9年間のカリキュラムだが、中1から他校に編入しても大丈夫か
- 再編で新しい学校が良くなるなら、猪位金学園を再編から除いているのはおかしい
- 説明資料の「猪位金を除く」という表記が納得できなかった
- 猪位金学園をこのように進めていながら、他校区は再編したいというのはおかしい
- 猪位金学園の成果を検証していないのはおかしい
- 猪位金は何のモデルだったのか
- 小規模校としての猪位金の課題解決策を提示してほしかった
- 猪位金学園を市内のどこからでも通えるようにしてほしい
- 猪位金学園は学級数を増やせる広さがないので、他校区から通う子どもが増えても教員数は変わらない
- 猪位金学園の今後を考えると、校区外から子どもを受け入れるべきだ
- 大きな中学校2校と小規模の猪位金学園では、子どもの数に違いがあり過ぎる
- 部活動などで市内学校対抗戦をする場合、大きな学校2校と猪位金で対戦するのか

再編問題における議論の構図

猪位金学園の方針決定時は、通学距離や方法の基準（目安）が今と違っていたが…



適正規模校、小規模校には、それぞれメリット・デメリットはあるが…

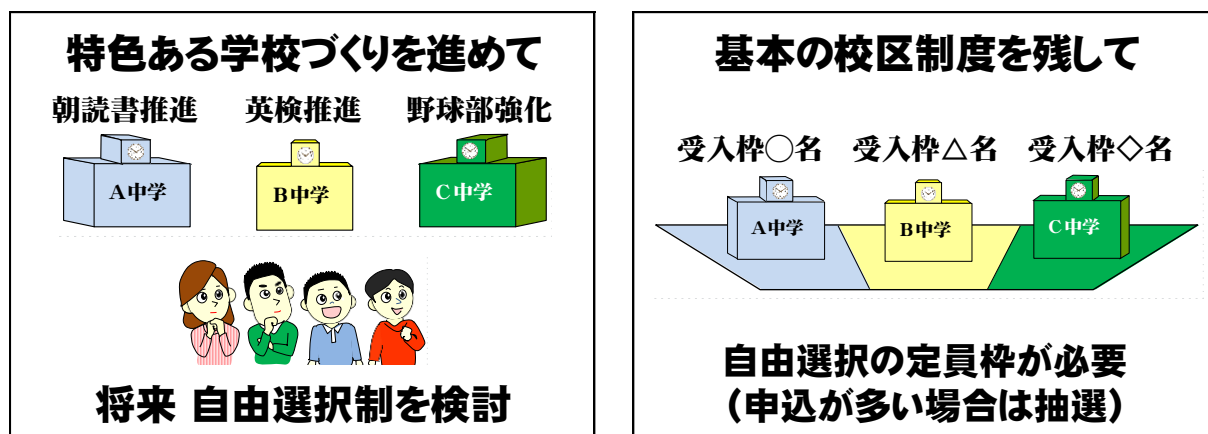


学校規模で得られるメリットを焦点にしているため、是非かの構図となっている

審議会案における学校間の関係（全体像）

審議会の答申案では、再編後の市立中学校について、「自由選択制の導入により、各学校がそれぞれの特色を生かした素晴らしい教育を実現していくことを期待します」としています。猪位金学園においても、「受け入れ可能な範囲において自由選択制の導入を検討し、その特色を生かした教育を共有すべき」とし、猪位金学園が、適正規模には満たないまでも、一定数の生徒を確保できる仕組みを提言しています。なお、「将来は、生徒数の減少推移を見極めながら、再編の検討を行う必要があると考えます」と結んでいます

～ 説明会スライドより ～

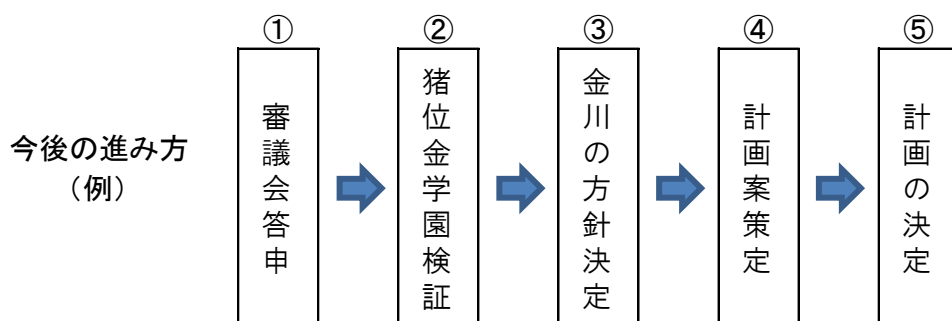


計画策定までの議論の流れ

審議会に諮問した段階での猪位金中学校（学園）に関する市教委の方針（基本方針から定かなこと）は以下のとおりです。

- (1) 今回の再編計画においては、猪位金中を統廃合の対象に含めない
- (2) 児童生徒の減少に対しては、校区の線引きを広げるなどの対策を検討する
- (3) 将来の統廃合については方針を決めていない

答申後は、小中一貫校に関する問題等を整理して計画策定に進む流れが想定されます。



答申と市教委の問題整理

住民説明会においては、市教委が猪位金小中一貫校を再編計画の中でどう位置付け、どう生かそうとしていたのを問われた状況です。その結論は、金川校区の小中一貫校設立に関する請願の取り扱いにも関係してくることで、当然のことながら、その位置づけや検証は、教育委員会が結論づけることであり、審議会が担う議論ではありません。

しかし、この問題は、答申後から計画策定までに市教委が必ず整理しなければならない大きな課題です。その解決が進まなければ、審議会が求めていく再編の早期実現が、危ぶまれる状況も想定されます。

審議会が、市民の意見を踏まえて、市教委が計画策定を進めていけるように、今後の議論の進め方や検証のあり方、また猪位金学園の将来の再編に関して、さらに踏み込んで提言すべきことがあれば、答申案に書き込むこととします。